

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

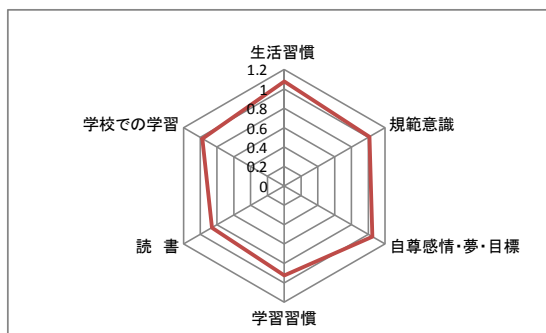
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率をやや下回っていた。 ・話す・聞く能力を問う問題の平均正答率が低く、今後の課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く問題は、全国平均正答率を上回っていた。	
	努力が必要な問題	・集めた材料を整理して文章を構成する問題と話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する問題、文字の形や大きさ、配列に注意して書く問題の平均正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・すべての問題で、全国平均正答率を下回っていた。 ・特に、記述式の問題は平均正答率が低く、無解答率も高いため、今後の課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・文章の構成を捉える問題は、全国平均正答率とほぼ同じだった。	
	努力が必要な問題	・根拠を明確にし、自分の考えを書く問題の平均正答率が低く、無解答率も高かった。また、目的に応じて文章を要約したり、課題に応じた情報の収集方法を考える問題の平均正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っているが、4領域の中でも関数は上回っていた。 ・設問ごとに見ると、大差はないとはいえ、数と式の領域では全国平均を下回る問題が多い。基礎的な計算の定着が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・全平面図形をその面と垂直な方向に平行に動かす構成される立体の名前を問う問題では正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・数量関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形する問題は正答率が低く、無解答率も高かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をわずかに下回っているが、4領域の中でも関数と資料の活用の2領域は上回っていた。 ・設問ごとに見ると無解答率が全国平均を上回っている問題が多く、特に数学な表現を用いて説明する問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・相対度数を求める式を書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・数学的な表現を用いて説明する問題の無解答率が高い。特に、三角形に付加された条件の下で新たな事柄を見いだし説明する問題の無解答率が高い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学校での学習活動については、昨年と同様に目標(めあて・ねらい)の提示及び振り返りの活動はよくできている。しかし、調べたことを発表したり、話し合う活動の充実が今後の課題である。 ・家庭での生活習慣学習については、家で学校の宿題や予習をする生徒の割合が全国よりも低い。また、普段の勉強時間が2時間以上の生徒と全くしていない生徒の割合が全国を上回っており、昨年と同様に学習時間が二極化している。 ・読書についての項目では、いずれも全国平均を下回っており、朝読書などの読書活動を充実させる取組が必要である。 ・将来の夢や目標を持っている生徒の割合が全国よりも高く、自尊感情も高い。キャリア教育や対人スキルアップ授業の充実を図った成果だと考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・学力向上推進委員会の定期化を継続し、各学年の情報交換や定期考査などの検証を行い、職員会議での全職員との共有化を図る。
・各教科の中で、自分の意見を書いたり説明したりする時間を積極的に設け、「書く」「説明する」ことの習慣化を図る。
・授業研究を伴う校内研修を実施し、授業力の向上とともに、発表や話し合い活動を取り入れたアクティブ・ラーニングの導入を図る。
・朝自習の時間で、計算や漢字など基礎的な学力の定着を図る。また、学期の始めと終わりの1～2週間、朝読書に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・定期的に生活アンケートをとり、生徒の生活習慣や学習習慣を把握する。
・家庭教育学級や学年・学級懇談会、PTA理事会などで現状を報告し、協力体制を得るなど、家庭との連携を強化する。
・学校・学年・学級通信を利用して、生活や学習習慣の改善を促す。
・継続して、長期休業における宿題や日々の宿題の点検、提出の徹底を図る